

白井大師 第6番 白井新田・橋本大師

- 1 名称 (No.006)〔大11：白井新田〕〔昭63：橋本大師様〕〔平08：観音堂・橋本内神〕
〔平17：橋本大師〕
- 2 場所 白井市根151-2 橋本梨園
富ヶ沢・光明寺から道程約1,640m
白井新田・観音堂跡から道程約400m
道路側から大師堂と手水舎の屋根が見えますが出入口の扉は閉められています。民家の敷地内なので勝手に入ることはいけません。
GPS座標 35.783042336012606, 140.04624842019024
- 3 由緒
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。
- 5 境内 大師堂と手水舎のほか四国八十八ヶ所順拝記念碑が2搭あり。元印西大師第77番。
- 6 写真 (2022.11撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



四国八十八ヶ所順拝記念碑 2搭



手水舎と大師堂の屋根 (道路側から)



手水舎と大師堂 (道路側から)

7 情報

(1) 四国八十八ヶ所 第6番 安楽寺 御詠歌

仮の世に 知行争う むやくなり 安楽国の 守護を望めよ
高野山真言宗 温泉山(おんせんざん) 瑠璃光院 安楽寺(あんらくじ)
本尊 薬師如来 徳島県上板町

(2) 橋本大師

この札所名は、「白井大師巡拝路」（2003年白井市教育委員会「白井市の民俗1」）に「橋本大師様」とあること、また「白井市の民俗2」（2006白井市教育委員会発行）の「平成17年白井大師の記録」には「橋本大師」と、さらに昭和63年の白井大師巡拝順路図でも「橋本大師様」とあることから、橋本大師としたものです。

(3) 観音堂と橋本内神

「白井組合大師札所寺院部落（白井谷清大師寺院札所二十六か所）」（梶原家文書の写し）には、「第六番（印）七十七番 観音菩薩 白井新田 観音堂 | 橋本内神」とあります。昭和55年に印西大師第77番札所は師戸の広福寺へ遷座してしまいますが、その前は、橋本大師が白井大師第6番と印西大師第77番を兼ねていたのでしょうか。それとも「白井新田」には、白井大師第6番・印西大師第77番の「観音堂」のほか、番外の札所として「橋本内神」があるということを示しているのでしょうか。

(4) 2022.11現地調査

御先祖様（橋本吉兵衛氏）が四国八十八ヶ所を順拝したときの古い記念碑と、その御子孫が順拝したときの新しい記念碑がありました。代々熱心に取組んできた証です。

以前はこの場所は梨畑だったが住まいが道路工事の立ち退きで現在の場所に移転したそうです。また、昔は春の印西大師と秋の白井大師でたくさんの方が来てにぎやかで、御接待もしたとのことでした。

橋本大師の御堂の中の大師像は1体だけでした。共同墓地の御堂にあった大師像がここにあるものなのか。その点について聞き漏らしてしまいました。

(5) 結願地区

「白井谷清村大師巡回簿」には、大正15年度(9月21、22日)の結願場所は白井新田「吉兵衛宅」と記載があり、また昭和15年度(9月21、22日)は「白井新田堂始め」と記載がある（高花宏行「白井組合大師資料から見た白井大師の概要」白井市郷土史の会機関紙「たいわ」No.37）とのことなので、大正15年は橋本吉兵衛宅において結願が執り行われ、昭和15年も同様に結願区となったようです。昭和18年度は第1日目の宿泊地区となっています。戦後も昭和35年度、昭和45年度及び昭和55年度は「白井新田」が結願地区だったので、白井大師に熱心に取組んできた地区であることがわかります。しかし、その後は結願区にも中食や泊りの地区にも「白井新田」は出てきません。昭和55年を最後に、印西大師だけでなく白井大師からも脱退したのでしょうか。それとも、（印西大師からは脱退したが、白井大師については）七次地区と合併し、結願は七次・長楽寺にお願いすることになったのでしょうか。

(6) 開村四百年記念碑（白井町調査報告書から）

天神社に昭和51年(1976年)に建立された開村四百年記念碑があります。そこには「一六〇三年から一七一九年までの百余年戸数十三戸とは云え存在は明らか」で、江戸時代からの「先代」の名がたくさん記されています。1603年から1707年までの間に、橋本姓だけで「元和 橋本仁右衛門 根 念仏塚 446」、「明暦 橋本仁左衛門 根 念仏塚 439」、「元文 橋本孫兵衛 根 念仏塚 438」と三名出ています。橋本家は、江戸時代初期に白井新田に入った開拓者の末裔ということになります。

白井大師 旧第6番 白井新田・観音堂跡

1 名称 (No.006)〔大11：白井新田〕〔昭63：橋本大師様〕〔平08：観音堂・橋本内神〕
〔平17：橋本大師〕

2 場所 白井市根430付近 共同墓地内

白井新田・橋本大師から道程約400m

富ヶ沢・光明寺から道程約1,340m

HondaCars市川の北隣を西に進むと共同墓地があり、そこにかつて観音堂があったらしい。

GPS座標 35.78051718212204, 140.04313851332063

3 由緒

4 御堂 現在は観音堂も大師堂もない。

5 境内 墓地の中央付近に木々が繁る一角がある。

また入口に地藏菩薩などの石造物がある。

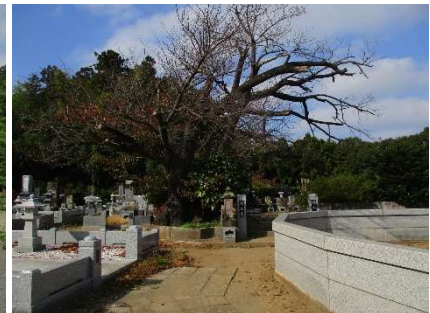
6 写真 (2022.11撮影)



HondaCarsの隣の地藏菩薩(明治37年)



共同墓地方面



共同墓地内

7 情報

(1) 観音堂跡

この名称については、「白井組合大師札所寺院部落（白井谷清大師寺院札所二十六か所）」（梶原家文書の写し）には、「第六番（印）七十七番 観音菩薩 白井新田 観音堂 橋本内神」、つまり白井大師第6番・印西大師第77番は、白井新田の「観音堂」との記載があるのでこの名称によりました。

(2) 印西大師

ア 遷座

印西八十八ヶ所手引鏡に、「(表紙裏書・異筆) 七十七同(番) 白井新田 砂田 こくぞうどう」との記載（第77番札所を砂田の虚空蔵堂から白井新田に遷座するという意味）があります。また、印西大師巡拝順路図には「第77番 師戸 広福寺 ← 砂田虚空蔵堂より白井新田に遷座するも昭和55年師戸廣福寺へ再び遷座」との記載があります。

イ 2022.11現地調査

白井ふるさとガイドの会会長様より、白井新田の印西大師第77番札所はHondaCarsの隣の共同墓地にあったと橋本梨園の御主人様から伺ったことがあるとの情報をいただきました。

橋本梨園様を訪問し、奥様からお話を伺いました。昔はHondaCarsの隣の共同墓地にも御堂があったとのことでした。共同墓地に行ってみると、HondaCarsの隣にはお地藏様や観音様ら

しき石像があり、墓地の中央付近に木立のある区画があったので、このあたりに御堂があったのかもしれないと思いました。(2022.11現地調査)

ウ 第77番の御大師様は何処へ

「白井組合大師札所寺院部落（白井谷清大師寺院札所二十六か所）」（梶原家文書の写し）には、「第六番（印）七十七番 観音菩薩 白井新田 観音堂 橋本内神」とあるので、白井大師第6番と印西大師第77番は観音堂にあったとも考えられます。

一方、印旛歴史民俗資料館の巡拝順路図（右図）では、白井新田（橋本大師）と旧第77番（共同墓地）は別の場所に表示されているので、御堂は2カ所、したがって御大師様も2つあったかのように見えます。それとも昭和55年に印西大師第77番札所は師戸の広福寺へ遷座したので、×印を付し、現在の順路は橋本大師の場所（○白井新田）に移っているということを示しているのでしょうか。



橋本大師の御堂の中の大師像は1体だけでした。①広福寺へ移ったのは番号だけで、観音堂にあった御大師様が現在の橋本大師の御大師様なのか、②それとも観音堂にあったのは砂田・虚空蔵堂からやってきた石像で、それは広福寺へ行ってしまったが、橋本家では御先祖様（橋本吉兵衛氏）が四国八十八ヶ所を順拝して帰ったのち大師堂を建立し、それが現在の橋本大師ということなののでしょうか。御大師様の石像はもともと1体だったのか、2体だったのか、番号とともに石像も広福寺へ移ったのか、そのあたりの事情をもう一度伺ってみたいものです。

大正時代の東葛印旛大師の例ですが、弘法大師の石像は遷座先へ移され、遷座先の世話人から遷座元の世話人へ差し出された奉迎証文（ほうげいしょうもん）（札所を迎え入れるための証文）が残されています。ということは、遷座というのは番号だけではなく御大師様の石像も移るということなののでしょうか。

https://www.city.kamagaya.chiba.jp/smph/sisetsu/kyoudo_2/nanisuru/nanisuru18.html

(3) 四国八十八ヶ所 第77番 道隆寺 御詠歌

ねがいをば 仏道隆に 入りはてて 菩提の月を 見まくほしさに
真言宗醍醐派 桑多山(そうたざん) 明王院 道隆寺(どうりゅうじ)
本尊 薬師如来 香川県多度津町